

第1部

大阪市における概数と概況 —概数・概況調査—

第1章

野宿生活者の概数・概況

1.1 調査の概要

<夜間調査>

日程 1998年8月20日(木)夜から8月24日(月)朝まで

動員数 20日/138人、21日/148人、22日/122人、23日/61人

動員部局 大阪市立大学、大阪府立大学の教員・院生、ボランティア

<昼間調査>

日程 1998年8月25日(火)朝から8月28日(金)夕方まで

動員数 25日/68人、26日/72人、27日/72人、28日/77人

動員部局 大阪市立大学、大阪府立大学の教員・院生、ボランティア

1.2 事前の予備調査および聞き取り調査

1998年6月まで 工営所、区役所、公園事務所などからの提供資料

1998年6月5日 西区昼間事前予備調査

1998年6月12日 都島区昼間事前予備調査

1998年6月16日 天王寺区昼間事前予備調査

1998年6月30日 主要商店街聞き取り調査1

1998年7月4日 北区昼間事前予備調査

1998年7月11日 主要商店街聞き取り調査2

1998年7月25日 浪速区夜間事前予備調査

1998年7月26日 市内周辺区夜間事前予備調査

1998年8月1日 天王寺区夜間事前予備調査

1998年7月31日~8月8日 市内全交番聞き取り調査

1.3 調査方法

本調査は目視調査のみで行なった。主調査は野宿生活者数が最も正確に調査できる夜間に行なうことにした。そして夜間において調査不可能な地区や事例に関しては、昼間調査で補うことにした。

1.4 調査対象

夜間は、目視可能な「就寝者」および「移動者」とした。「就寝者」については、就寝している人が確認できることを原則とした。この場合の就寝形態は、「ダンボール囲い」、「ダンボールや新聞紙などの敷物」、「ベッドなど」、「ベンチの上」、「何も無し」、「その他」に類型化した。もちろんダンボール囲いで覆われて就寝者が確認できない場合もあったが、これも「就寝者」として計上した。所持品なども調査したが、調査結果には示していない。

昼間は、目視できる「仮設住居」を調査対象とし、「移動者」や「仮設住居」以外での就寝者はその対象としなかった。カウントはしているが、調査結果には計上していない。この「仮設住居」とは、「テント」、「小屋掛け」、「ダンボールハウス」、「廃車」、「その他の形態」に類型化した。ただし「仮設住居」については明らかに2人以上いる場合も確認されたが、すべて1事例として計上した。

ただし、夜間で「仮設住居」が調査可能な場合は、その数を計上し、昼間に再度当該個所の確認調査を行った。ダブルカウントを避けるため、数値は昼間の値を採用している。また夜間の「移動者数」は計上しているが、その住居が昼間の「仮設住居」でダブルカウントされている事例も含まれるが、これは除去不可能であった。したがって「就寝者」(夜間) + 「移動者」(夜間) + 「仮設住居」(昼間・一部夜間) = 野宿生活者として計上している。

その他、就寝・居住場所の特定も行っている。その分類は道路、高架下、公園、河川敷、寺社などにわたっている。

1.5 調査地域

夜間については、事前調査などから判断して、野宿生活者の居住密度が比較的高いと思われる地区には「悉皆調査」を(自転車、徒歩)、居住密度がかなり低いと思われる地区には「拠点調査」を行なった(自動車、自転車)。「悉皆調査」は、全街路、高架下、ターミナルなどをくまなく目視で調査を行うものであり、「拠点調査」は、全公園、アーケード商店街、河川敷、墓地などの調査である。なお公園については、全公園を調査した。

昼間については、高架下、河川敷、公園、夜間調査や事前調査などで所在が確認されている場所における「仮設住居」を目視調査した。

すなわち全市域を線状、点状に調査をかけた。就寝跡数や移動者数も調査したが、野宿生活者数としては計上していない。したがって、面的に夜間就寝者「悉皆調査」、点的に夜間就寝者「拠点調査」、線的・点的に昼間「仮設住居調査」を行なった。

なお「悉皆調査」の対象地区は、北区、中央区、天王寺区、浪速区、西成区的全エリアと、西区(木津川以東)、住之江区(南港などの埋立地を除く)の大半、淀川区(十三・新大阪駅付近)、都島区(京橋駅付近)、福島区(北区・中央区との接続地区)、阿倍野区(あべの橋駅周辺)の一部である。

従って、「悉皆調査」をかけていない地区では、公園や高架下、河川敷、アーケード商店街などを除いた未調査地区が存在する。こうした地区の野宿生活者は調査されていない。しかし事前の調査などからして未調査数は今回で得られた総数の1、2%くらいでないかと推測している。

1.6 調査時間

夜間については、ターミナル、盛り場は午前1時から4時、その他の地区は午後11時から午前2時ごろにかけて行なった。地下街のあるところは原則地下街が夜間閉鎖されてから調査を行なった。昼間については午前11時から午後3時くらいにかけて行なった。

1.7 野宿生活者の地理的分布について

1.7.1 ブロック別特徴

章末の表 1.1、表 1.2、表 1.3、表 1.4 と図 1.1 を参照して欲しい。大阪市全域では 8,660 事例が計上されたが、西成区で 22.0 % の 1,910 事例、浪速区で 18.3 % の 1,585 事例、中央区で 12.9 % で 1,117 事例、天王寺区で 12.5 % の 1,084 事例、北区で 12.5 % の 1,079 事例というように、これら 5 区で、4 分の 3 以上の 78.2 % を占めている。

■南部の核心地区 以前より野宿生活者の集中する南部の西成、浪速、天王寺区そして阿倍野区にまたがる、天王寺・新今宮駅周辺には、単純に区集計データをあげただけでも、ちょうど 5,000 事例で 57.7 % と市内の野宿生活者の集中する地区であることには変わりないが、事前の野宿生活者数が市内全域で 5,000 事例を超えるかどうかと予想されていたが、これらの地区だけでその数が上がってしまうほどの集中状況である。地域的にはやはり西縁の国道 26 号線以東、南縁の市設南霊園（阿倍野墓地）北側道路以北、北縁の南海難波駅南・日本橋 3 丁目以南、そして東縁は谷町筋を越えて四天王寺、天王寺駅、あべの橋駅までのエリアを南部の核心地区として、3,527 事例となり、全市の 4 割の 40.7 % を占めている。いわゆる釜ヶ崎（あいりん地域）である萩之茶屋 1~3 丁目では、643 事例、釜ヶ崎（あいりん地域全体）に広げると、1,191 事例となる。浪速区側では、国道 26 号線以東、日本橋 3 丁目以南の浪速区核心地区で 1,237 事例を数える。天王寺区側の核心地区では、天王寺公園の 430 事例、四天王寺境内の 260 事例、それらを除く天王寺・あべの橋駅周辺で 409 事例が確認されている。

■西成区 この南部の核心地区を除くそれより南について（254 事例を有する津守 1 丁目の西成公園を考えずに）、西成区の場合は、核心地区と近接したエリアではやはり多くの事例が確認されるが、西成区南部になると路地型市街地ということもあり、比較的野宿生活者は少なくなっている。路地型と土地区画整理型の市街地の分かれ目である鶴見橋商店街の以北（北開、中開、南開、出城、長橋、鶴見橋の各町丁）、以南（旭、梅南、松、橘の各町丁）でその事例を比較してみると（国道 26 号線以西、阪神高速堺線以東）、以北が 232 事例で以南が 19 事例と、同じ西成区でも大きな分布の差が出ている。国道 26 号線以東で核心地区より以南の天下茶屋岸里では高架下もあって 108 事例がやはり計上されている。

■住之江区 西成区に接する住之江区については、住之江公園、住吉公園や高架下に多いものの、区画整理型の市街地にもかなり見られ、区全体で 174 事例もあがっている。西成区の津守の臨海地区を含めると、200 事例を超える野宿生活者が確認される。工場などの生産施設付近にも野宿生活者の存在が見られる。南港については本調査では確認されなかったが、事前の調査では数事例確認されている。

■中央区 中央区の 1,117 事例という数字は、難波、千日前といった南で核心地区に接続する地域と、少し北に上がって御堂筋、心齋橋筋、そして島之内や船場のオフィス街、問屋街、商店街、そして北東の大阪城公園の数字が広範囲に計上されているが、南部の核心地区から中央部に野宿生活者の居住エリアが拡大していることが見て取れる。因みにミナミとして、JR 難波駅から南海難波駅から千日前付近と、長堀通以南の御堂筋、心齋橋筋沿線で、380 事例の 4.4 % を占めている。

■北区 北区は事前には 500 事例前後と予想されていたが、1,079 事例という数字は非常に大きい数字となっている。基本的には大川から中之島の河川敷、公園と梅田ターミナル近辺に大きく集中しているが、淀川河川敷も含めほぼ全町丁に見られる。結局、都島区の大川沿いや京橋駅付近を含めて、北部にも千人強の集中が見られるようになった。梅田ターミナル周辺のキタを茶屋町、新御堂筋、国道 2 号線、四ツ橋筋で囲った JR 大阪駅近辺では 370 事例があげられた。ほぼミナミと同数が、繁華なターミナル付近をめぐらしていることになる。また中之島の島全体ではちょうど 200 事例となっている。

■CBD 地区 旧船場、旧島之内、旧堀江のいわゆる CBD 地区（中央業務地区）については、図 1.1 では町丁面積が異なるため、少し分布状況がわかりづらくなっているが、ほぼ全町丁に見られることがわかる。その西部の一角をなす西区は、靱公園以外に集中している地区はないが、やはり万遍なく分布している。ここで東横堀、道頓堀、木津川、土佐堀川で画された中央区、西区の CBD 地区で計上してみると、野宿生活者は 462 事例にもものぼり（一部ミナミと重複）、夜間には多くの野宿生活者が CBD 地区をねぐらとしていることが確認される。

■上町方面（中央区、天王寺区） CBD 地区の東横堀を越えた上町台地方面であるが、中央区の該当地区で 576 事例、天王寺区の該当地区で 187 事例と、特に中央区方面で数多くの事例があがっており、CBD 地区をあわせて旧城下町エリアでは、ほぼ全面的に野宿生活者のねぐらが拡散して展開しているといえよう。

■東部諸区 環状線以東の東部は、元来ほとんど野宿生活者の存在があまりなく、その意味で注目されていなかった区であった。北は旭区から、南は東住吉区、平野区までの 8 区では、長居公園の 313 事例を別格として、都島区の大川沿い河川敷、京橋駅付近と、あとは城北公園、鶴見緑地、大和川河川敷などが比較的集中している所である。都島区と長居公園を除く 7 区の総数は、253 事例で、1 区当たり平均 36 事例となっている。もともと報告事例が少なかった所で、公園を中心に東部にもあちこちに確認される状況となっている。

■淀川以北 淀川北部については、新大阪駅と十三駅周辺にも新たに集中する傾向が見られる。それに加えて淀川および神崎川河川敷にもかなりの分布が見られる。新大阪駅、南方付近で 130 事例が確認されている。

■臨海諸区 その前に福島区であるが、キタに隣接しているが、路地型市街地が多いせい、26 事例と少ない分布である。此花区、港区、大正区に関しては、3 区あわせて 75 事例が計上されている。もともといないという報告をされていた所なので、75 事例もあがったという見方もできよう。港湾部であり、川や運河をまたぐ橋梁が少なく、それを越えての移動が結構困難のこともあってか、野宿生活者の居住例は少なくなっている。

■阿倍野・住吉区 聖天山公園 53 事例とか長池 13 事例、桃ヶ池公園 14 事例にかなり集中して確認されるが、阿倍野区の北部やこうした公園を除くと東部諸区と同じくらいの分布度といえる。

公園、寺社について再掲するが、天王寺公園 430 事例、大阪城公園 360 事例、長居公園 313 事例、四天王寺境内 260 事例、西成公園 254 事例、中之島公園 125 事例、扇町公園 96 事例、生玉公園 71 事例などがあげられる（いずれも若干周辺部を含む）。

1.7.2 居住形態別の分布

図 1.2、図 1.3、図 1.4、図 1.5 は、居住形態別の分布を図化したものである。「テント・小屋」系は実数的には核心地区でも多く計上されているが、市内中央部には大阪城公園や中之島公園、大川沿いの河川敷の公園に多く見られる他は、やはり周辺部の河川敷に多く分布している。「敷物」系は核心地区に多い他に、やはり市内中央部、南西部に見られ、周辺部はほとんど存在していない。「囲いダンボール」系は、市内中央部に散発的に分布している様相が見て取れる。

1.7.3 居住形態の特質

表 1.2、表 1.4 を参照してもらいたい。表 1.2 は左欄から、いわゆるねぐらの装備度が高い「テント・小屋」系から、ほぼ「何ものなし」で寝ている状態までを 4 段階に便宜的に区分している。大阪市全体では、ほぼ半分が「敷物」系で、4 分の 1 が「テント・小屋」系で、1 割前後が「何ものなし」「囲いダンボール系」であることがわかる。

ところが各区別にはかなり様相は異なる。表 1.4 は代表的な集中地区別にその内訳を見たものであるが、

南部の核心地区では「敷物」系が4分の3近くになるということである。その分他のねぐら形態の率が半減している状況である。そもそも野宿生活者の密度が濃く、装備度の高いねぐらの物理的な余地が少なくなっていることを示している。ミナミやキタのターミナル付近も同じような傾向が出ている。

しかしCBD地区や、上町台地方面になると「敷物」系が4割前後になるかわりに、「囲いダンボール」系や「何もし」が増え、かなり多様なねぐらが共存することになる。物理的なねぐらの余地があることと、緊急避難的にそうした余地に入り込んでくる層が、こうしたねぐらの共生を生んでいる。周辺区に行くと、たとえば東部の周辺7区では、「テント・小屋」系、「敷物」系、「何もし」系が3割前後で拮抗してくる。野宿生活者の生活状況に応じたねぐらの選択が行われているようだ。淀川以北もほぼ同じ傾向にある。臨海3区（港、此花、大正区）では明確な特徴をつかむことはできない。

大公園については、各公園でかなり状況は異なる。西成公園や生玉公園のようにほぼ「テント・小屋」系のみのところから、天王寺公園や中之島公園のように「敷物」系が最大多数のところもある。公園の立地によっているが、大公園が必ずしも「テント・小屋」系だとはいえないことが確認される。

■概数・概況の集計表を見る際の注意点 集計表を見る場合には以下の諸点に注意すること。

1. 集計表は大きく分けると「野宿生活者の就寝形態」、「野宿生活者の居住形態」、「移動している野宿生活者」の3カラムからなっている。
2. 「野宿生活者の就寝形態」とは、夜間調査で調査した「非定着」野宿生活者を指している。
3. 「野宿生活者の居住形態」とは、主に昼間調査した「定着」野宿生活者（一定期間当該場所に居住していると予想される野宿生活者）を指している。
4. 「移動している野宿生活者」とは、夜間調査の過程で確認した、明らかに野宿生活者と判定できた人たちを指している（例えばリヤカーや台車等を引いて資源回収に従事している人や、ダンボール等を持って就寝場所を探していると思われる人）。
5. 「野宿生活者の就寝形態」における「その他」とは、調査項目のカテゴリーでは拾いきれなかった変則的な就寝形態を指している（例えばリヤカーに積んでいるダンボールの上に寝ている、あるいはリヤカーの中に寝ている、台車にうづくまるように寝ている等である）。
6. 「野宿生活者の居住形態」における「その他」とは、そこに野宿生活者が住んでいると思われる「形跡」はみられるものの、野宿生活者本人を確認できなかった場合を指している（例えば、毛布や椅子、調理器具などの生活用具がある場合、傘を壁として自分の野宿スペースを確保している場合等）。
7. 「小計」とは「野宿生活者の就寝形態」「野宿生活者の居住形態」について、それぞれの詳細項目を加えたものである。
8. 「合計」とは「野宿生活者の就寝形態」「野宿生活者の居住形態」の合計である。
9. 「総合計」とは「合計」に「移動している野宿生活者」を加えたものである。「合計」を細かくわけた理由は、定着性の高い野宿生活者とそうでない野宿生活者を区分・比較するためである。
10. 夜間調査で確認した「移動している野宿生活者」については、見落としやダブルカウントの可能性が高いため、「合計」には算入していない。移動者についてのダブルカウントについては、集計の過程でチェックして補正してあるので、この集計表では問題にならないが、調査時点におけるすべての移動者を確認できたわけではないので、この移動者の数は実際よりも過小であり、せいぜいその「ミニマム」と考えるべきであろう。

	テント・小屋 掛け・ダン ボールハウ ス・その他の 形態・廃車	囲いダンポー ル・布団・ベッ ド・その他	敷物・ベンチ	何もなし	移動者	合計
大阪市	2253	607	4358	874	568	8660
北区	261	91	475	156	96	1079
都島区	59	4	44	23	4	134
福島区	6	3	8	5	4	26
此花区	8	0	9	2	7	26
中央区	324	78	470	116	129	1117
西区	40	41	27	26	23	157
港区	9	3	3	14	1	30
大正区	3	1	4	8	3	19
天王寺区	211	73	661	95	44	1084
浪速区	351	157	924	84	69	1585
西淀川区	33	1	8	16	6	64
淀川区	39	5	34	46	19	143
東淀川区	42	2	19	29	3	95
東成区	1	0	12	10	7	30
生野区	7	1	16	10	7	41
旭区	19	4	17	13	0	53
城東区	6	0	16	3	1	26
鶴見区	4	5	8	8	2	27
阿倍野区	116	36	206	38	25	421
住之江区	17	11	100	17	29	174
住吉区	8	4	10	6	2	30
東住吉区	181	19	126	29	3	358
平野区	15	3	2	9	2	31
西成区	493	65	1159	111	82	1910

表 1.1: 野宿生活者類型別区別内訳（実数）

	テント・小屋 掛け・ダン ボールハウ ス・その他の 形態・廃車	囲いダンポー ル・布団・ベッ ド・その他	敷物・ベンチ	何もなし	移動者
大阪市	26.0	7.0	50.3	10.1	6.6
北区	24.2	8.4	44.0	14.5	8.9
都島区	44.0	3.0	32.8	17.2	3.0
福島区	23.1	11.5	30.8	19.2	15.4
此花区	30.8	0.0	34.6	7.7	26.9
中央区	29.0	7.0	42.1	10.4	11.5
西区	25.5	26.1	17.2	16.6	14.6
港区	30.0	10.0	10.0	46.7	3.3
大正区	15.8	5.3	21.1	42.1	15.8
天王寺区	19.5	6.7	61.0	8.8	4.1
浪速区	22.1	9.9	58.3	5.3	4.4
西淀川区	51.6	1.6	12.5	25.0	9.4
淀川区	27.3	3.5	23.8	32.2	13.3
東淀川区	44.2	2.1	20.0	30.5	3.2
東成区	3.3	0.0	40.0	33.3	23.3
生野区	17.1	2.4	39.0	24.4	17.1
旭区	35.8	7.5	32.1	24.5	0.0
城東区	23.1	0.0	61.5	11.5	3.8
鶴見区	14.8	18.5	29.6	29.6	7.4
阿倍野区	27.6	8.6	48.9	9.0	5.9
住之江区	9.8	6.3	57.5	9.8	16.7
住吉区	26.7	13.3	33.3	20.0	6.7
東住吉区	50.6	5.3	35.2	8.1	0.8
平野区	48.4	9.7	6.5	29.0	6.5
西成区	25.8	3.4	60.7	5.8	4.3

表 1.2: 野宿生活者類型別区別内訳（％）

地区名 1	地区名 2	テント・小屋掛け・ダンボールハウス・その他の形態・廃車	囲いダンボール・布団・ベッド・その他	敷物・ベンチ	何もなし	移動者	合計
南部の核心地区	あいりん地域(釜ヶ崎) ^b	148 (88)	22 (3)	909 (501)	72 (36)	40 (15)	1191 (643)
	浪速区核心地区	245	113	792	59	28	1237
	天王寺あべの橋駅周辺	67	44	263	19	16	409
	天王寺公園	113	8	281	22	6	430
	四天王寺境内	14	12	203	28	3	260
	小計	587	199	2448	200	93	3527
ミナミ		17	30	242	48	43	380
キタ		6	37	284	24	19	370
CBD		49	84	204	55	70	462
上町方面 天王寺区	天王寺公園、四天王寺、生玉公園を除く	14	24	79	39	31	187
上町方面 中央区	大阪城公園を除く	70	63	217	125	101	576
新大阪駅付近		46	6	39	26	13	130
東部諸区 ^a	長居公園を除く	74	15	77	68	19	253
公園・寺社	天王寺公園	113	8	281	22	6	430
	大阪城公園	261	3	74	12	10	360
	長居公園	159	17	120	14	3	313
	四天王寺境内	14	12	203	28	3	260
	西成公園	252	0	1	0	1	254
	中之島公園	42	18	57	3	5	125
	扇町公園	57	1	30	7	1	96
	生玉公園	63	1	4	2	1	71
小計	961	60	770	88	30	1909	

^a 東部諸区とは旭区、城東区、鶴見区、東成区、生野区、東住吉区、平野区の7区である。

^b ここでは具体的に萩ノ茶屋1-3丁目を指している。

表 1.3: 主要地区の野宿生活者分布内訳（実数）

地区名 1	地区名 2	テント・小屋掛け・ダンボールハウス・その他の形態・廃車	囲いダンボール・布団・ベッド・その他	敷物・ベンチ	何もなし	移動者
南部の核心地区	あいりん地域(釜ヶ崎)	12.4 (13.7)	1.8 (0.5)	76.3 (77.9)	6.0 (5.6)	3.4 (2.3)
	浪速区核心地区	19.8	9.1	64.0	4.8	2.3
	天王寺あべの橋駅周辺	16.4	10.8	64.3	4.6	3.9
	天王寺公園	26.3	1.9	65.3	5.1	1.4
	四天王寺境内	5.4	4.6	78.1	10.8	1.2
	小計	16.6	5.6	69.4	5.7	2.6
ミナミ		4.5	7.9	63.7	12.6	11.3
キタ		1.6	10.0	76.8	6.5	5.1
CBD		10.6	18.2	44.2	11.9	15.2
上町方面 天王寺区	天王寺公園、四天王寺、生玉公園を除く	7.5	12.8	42.2	20.9	16.6
上町方面 中央区	大阪城公園を除く	12.2	10.9	37.7	21.7	17.5
新大阪駅付近		35.4	4.6	30.0	20.0	10.0
東部諸区	長居公園を除く	29.2	5.9	30.4	26.9	7.5
公園・寺社	天王寺公園	26.3	1.9	65.3	5.1	1.4
	大阪城公園	72.5	0.8	20.6	3.3	2.8
	長居公園	50.8	5.4	38.3	4.5	1.0
	四天王寺境内	5.4	4.6	78.1	10.8	1.2
	西成公園	99.2	0.0	0.4	0.0	0.4
	中之島公園	33.6	14.4	45.6	2.4	4.0
	扇町公園	59.4	1.0	31.3	7.3	1.0
	生玉公園	88.7	1.4	5.6	2.8	1.4
小計	50.3	3.1	40.3	4.6	1.6	

表 1.4: 主要地区の野宿生活者分布内訳（％）

	野宿生活者の就寝形態							野宿生活者の居住形態					合計	移動して いる野宿 生活者	総合計
	ダンボール 囲い・布団	敷物	ベット	ベンチ	何もなし	その他	小計	小屋掛け テント	ダンボー ルハウス	廃車	その他	小計			
北	81	475	9	0	156	1	722	223	15	1	22	261	983	96	1079
都島	4	44	0	0	23	0	71	51	1	0	7	59	130	4	134
福島	3	8	0	0	5	0	16	2	0	0	4	6	22	4	26
此花	0	9	0	0	2	0	11	7	0	0	1	8	19	7	26
中央	64	470	9	0	116	5	664	291	16	1	16	324	988	129	1117
西	39	27	0	0	26	2	94	31	6	0	3	40	134	23	157
港	3	3	0	0	14	0	20	5	0	2	2	9	29	1	30
大正	1	4	0	0	8	0	13	1	0	1	1	3	16	3	19
天王寺	63	657	0	4	95	10	829	207	4	0	0	211	1040	44	1084
浪速	104	924	39	0	84	14	1165	255	74	16	6	351	1516	69	1585
西淀川	1	8	0	0	16	0	25	29	2	2	0	33	58	6	64
淀川	3	34	0	0	46	2	85	26	4	3	6	39	124	19	143
東淀川	2	19	0	0	29	0	50	8	0	33	1	42	92	3	95
東成	0	4	0	8	10	0	22	0	1	0	0	1	23	7	30
生野	0	9	0	7	10	1	27	4	2	0	1	7	34	7	41
旭	4	17	0	0	13	0	34	19	0	0	0	19	53	0	53
城東	0	6	0	10	3	0	19	6	0	0	0	6	25	1	26
鶴見	5	5	0	3	8	0	21	0	0	4	0	4	25	2	27
阿倍野	33	206	2	0	38	1	280	100	14	0	2	116	396	25	421
住之江	6	57	3	43	17	2	128	7	2	3	5	17	145	29	174
住吉	4	10	0	0	6	0	20	5	3	0	0	8	28	2	30
東住吉	17	70	2	56	29	0	174	164	2	10	5	181	355	3	358
平野	0	1	3	1	9	0	14	14	0	1	0	15	29	2	31
西成	41	1114	11	45	111	13	1335	415	5	70	3	493	1828	82	1910
合計	478	4181	78	177	874	51	5839	1870	151	147	85	2253	8092	568	8660

表 1.5: 大阪市野宿生活者概数

図 1.1: 「概数・概況調査」の結果（総合計）

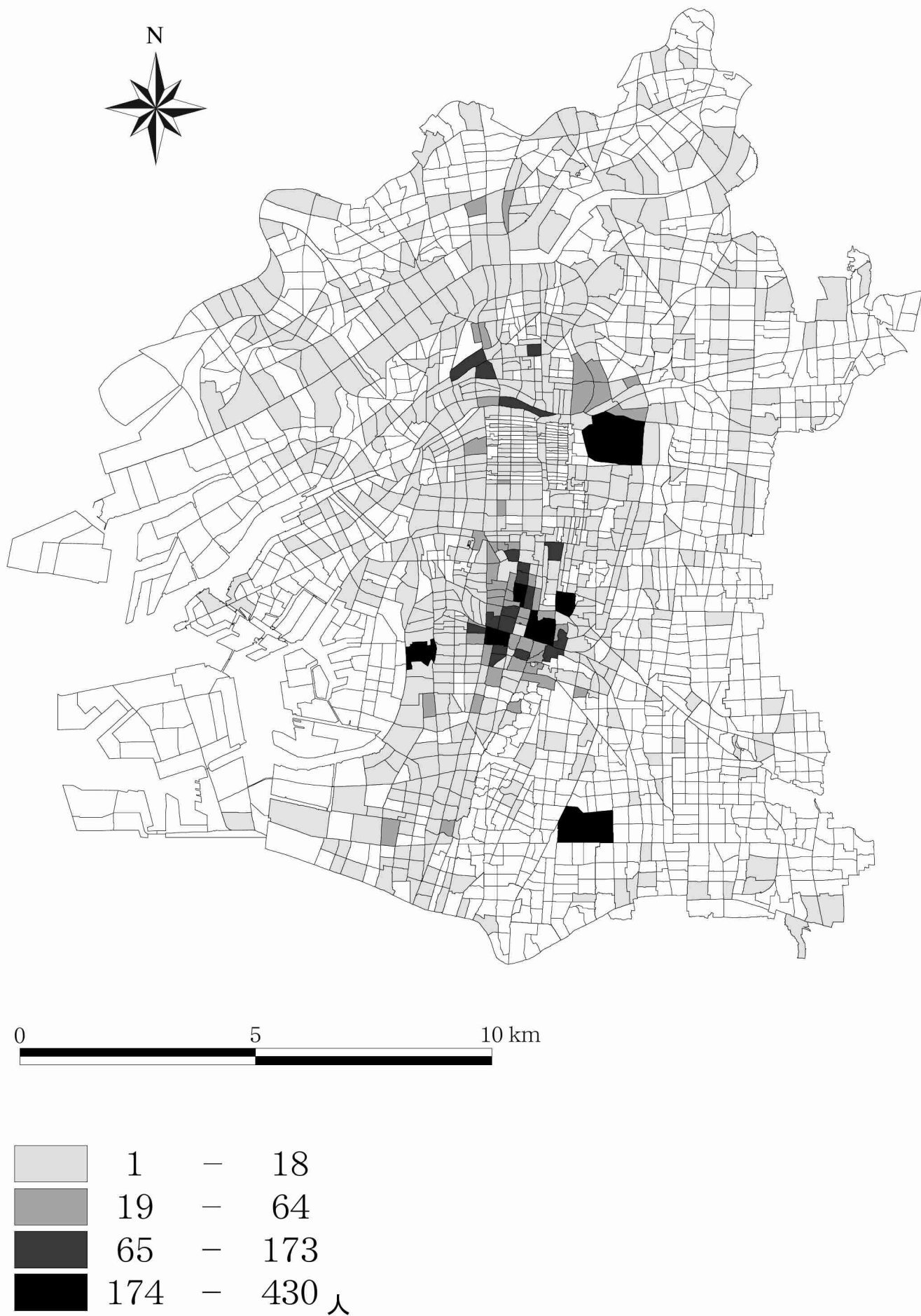


図 1.2: 「概数・概況調査」の結果（テント・小屋掛け・ダンボールハウス・その他の形態・廃車）

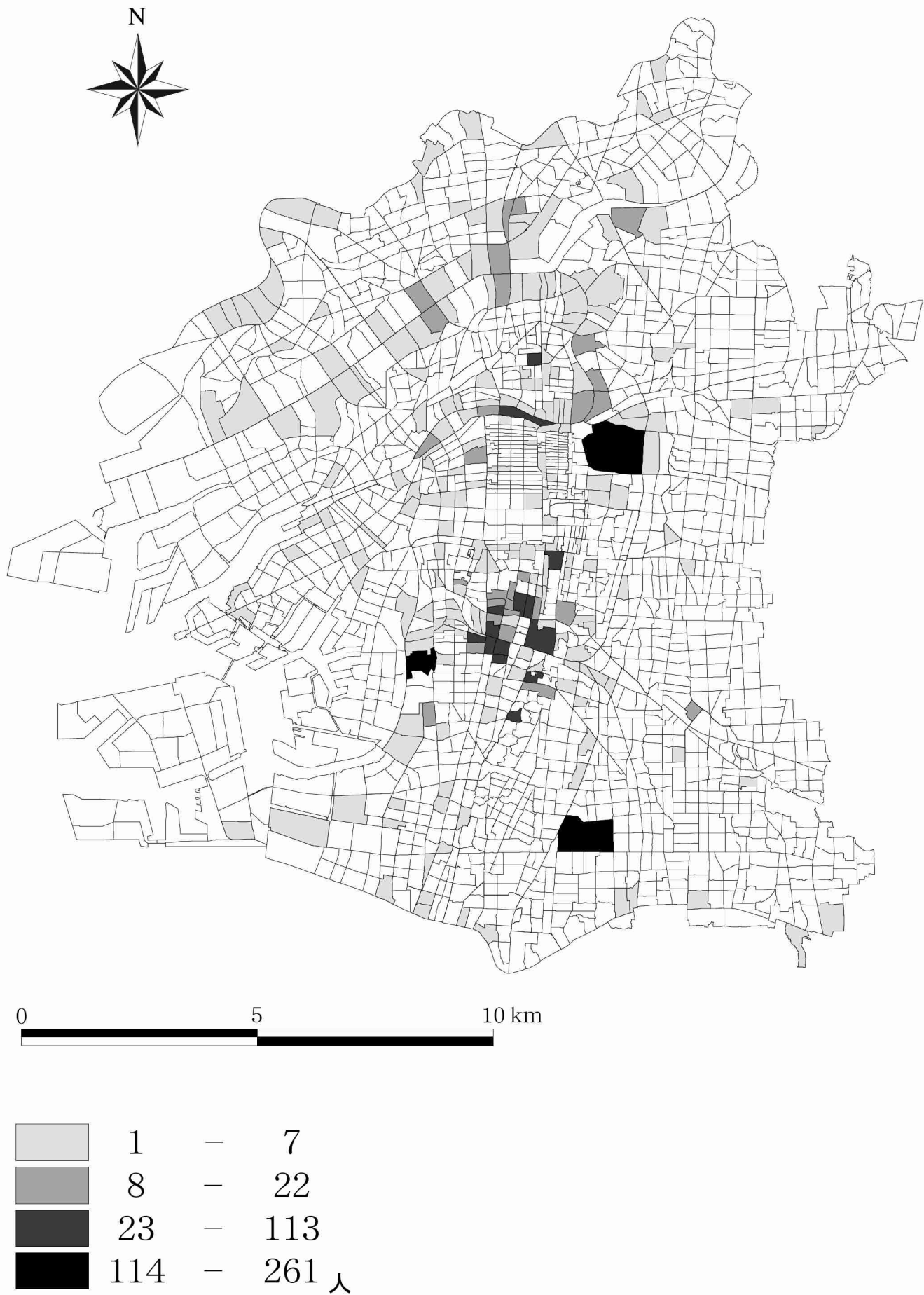


図 1.3: 「概数・概況調査」の結果（囲いダンボール・
布団・ベッド・その他）

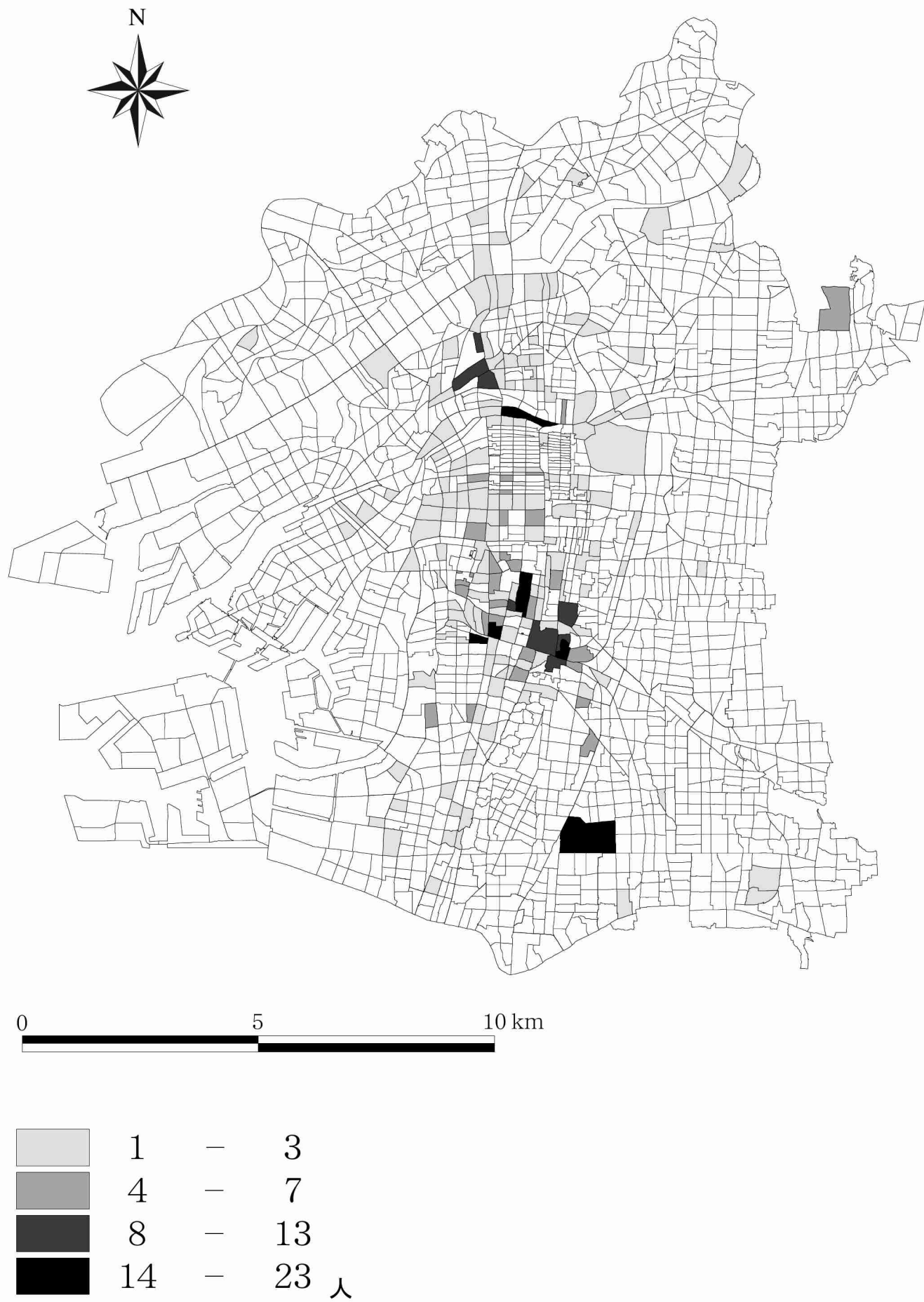


図 1.4: 「概数・概況調査」の結果 (敷物・ベンチ)

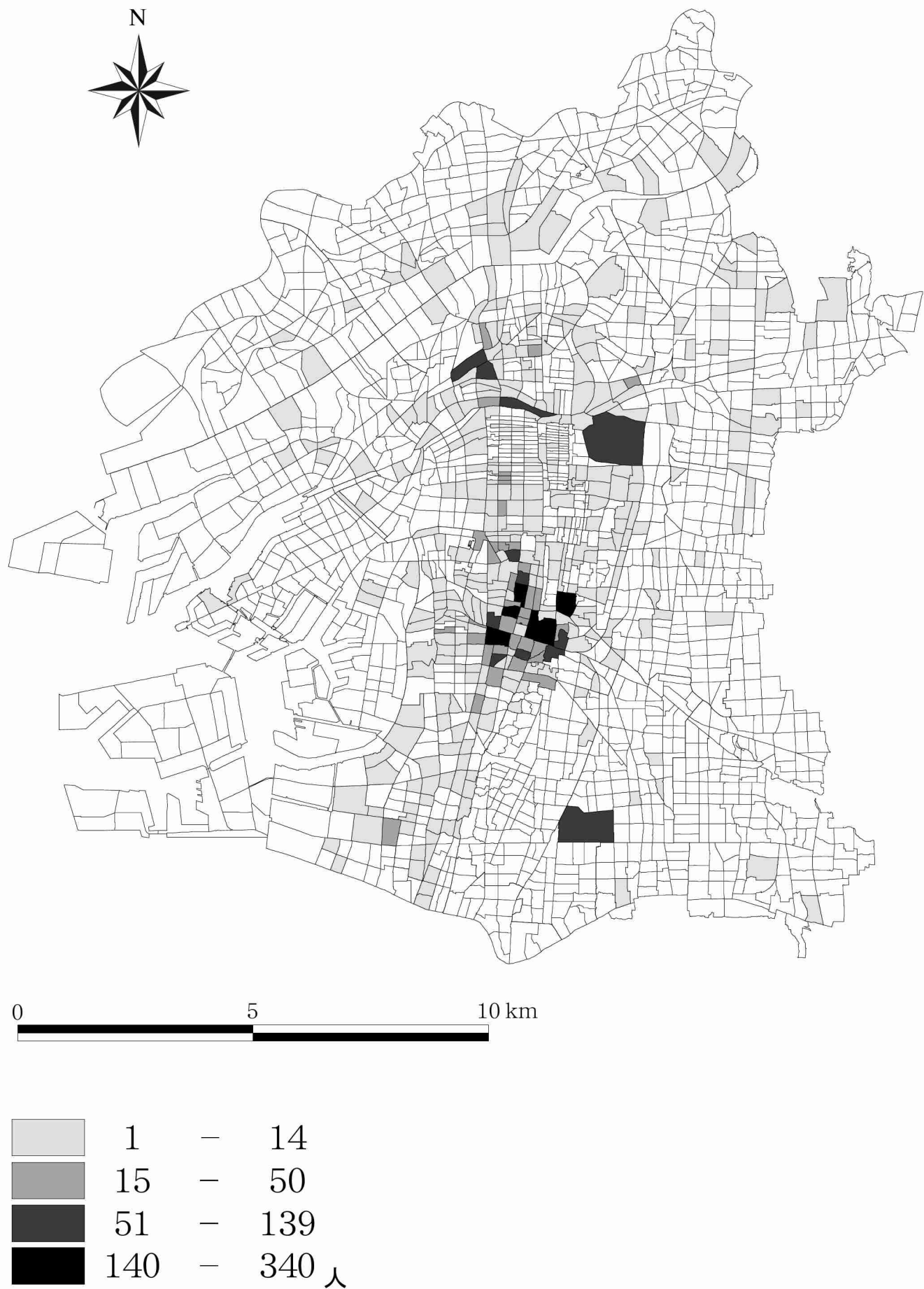


図 1.5: 「概数・概況調査」の結果 (なにもなし)

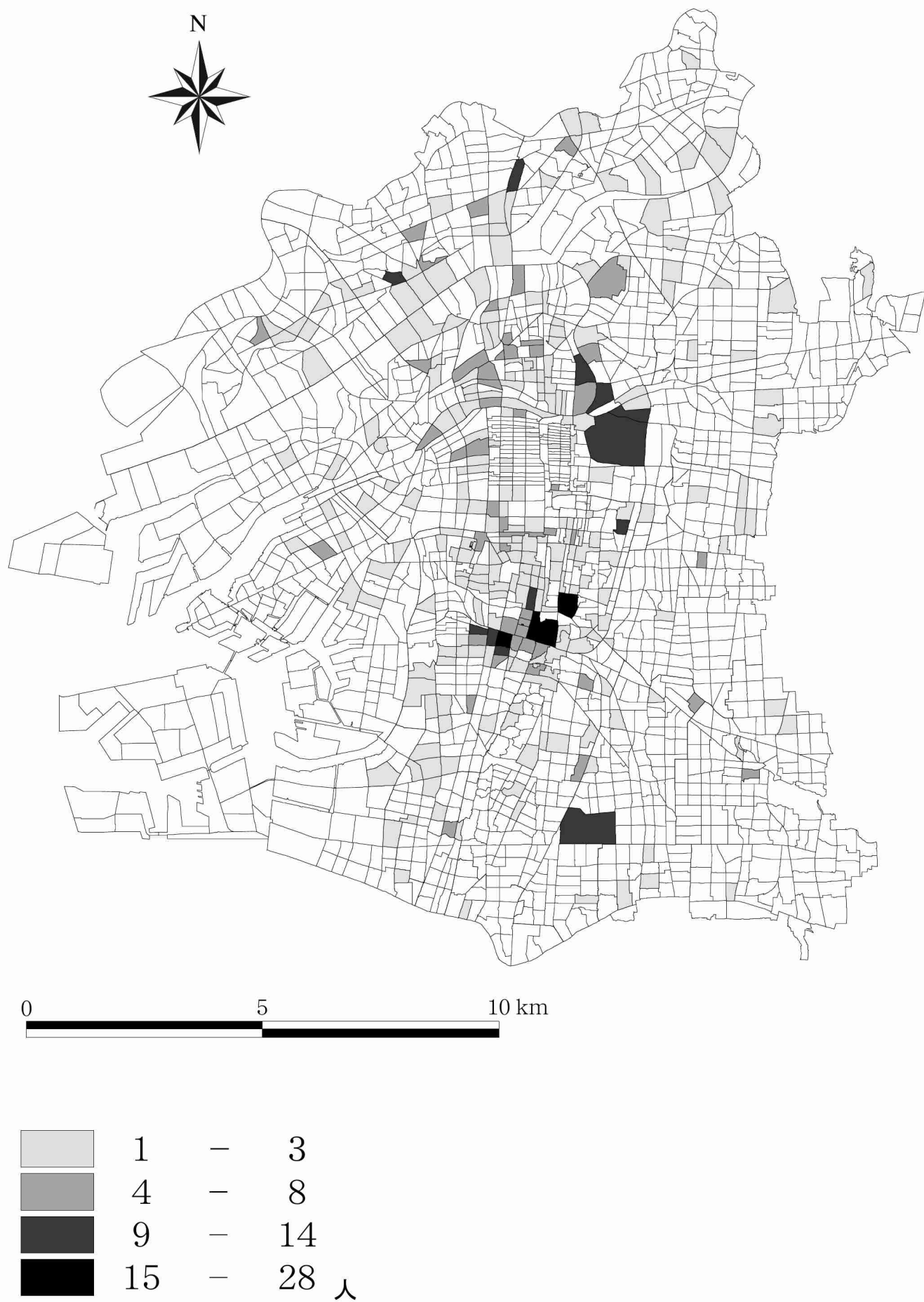


図 1.6: 「概数・概況調査」の結果（移動者）

